

中のく小佛

美濃 坂井 長光

初めて兒童に教ふべき材料に於て遊戯唱歌のみは大人が撰定したるものを無心の兒童に教ふべきよりは、風俗に關係せざる以上に於て、其地方在來の歌を其地方自然の調子に唱はしむるを遙かに優れりとす、今左に美濃地方の兒童遊戯法及其唱歌を記す。

トキ	2	1	2	1	2	2	2	2	—	2	1	2	1	2	2	6	—
調	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ	ナカノ
ナカノ	2	2	2	1	2	4	2	1	2	4	2	1	2	2	2	6	—
ナカノ	2	—	2	2	1	2	1	1	2	—	0						

よ。高たひも夫に背を低く佛の
 うもさう背を食ひの故背の
 なれすん低た日が小

遊戯法

兒童何十人なりとも圓陣を作り中に撰定したる一人を容れ、歌を唱ひながら左進行をなし、一曲終る毎に進行停止且蹲る、此時中の一人は各兒童一人づゝに向て、凡ての草木或は鳥獸に於て名を稱へしめ、最後に衆兒より中の一人に向ひ、お前は何人だと尋ねしむ中の一人は最も恐ろしき物の名を稱すれば、各兒童は恐れて解散し逃げ廻るを一人捕ふれば、再び圓陣は作られて前遊戯に取掛るを例とす、其解散して再び圓陣を作るときの早さ余は其自然遊戯の制裁に感服せり。

樂曲は自然の音調を風琴、ウイオリン等に依て調べたるものなり是によりて唱歌教授を導き後に至て道德的の歌を教へなば易からんと考ふ余は各地方の俗歌の調子をも知りたし